

# ケーススタディ：アシックス

## 資料編 《沿革》

1949年	3月	鬼塚商会発足
	9月	鬼塚商会を改組し、鬼塚株式会社（神戸市）を設立 スポーツシューズ専門メーカーを旨としてバスケットボールシューズほかスポーツシューズの開発・生産・販売開始
1953年	5月	自家工場タイガーゴム工業所（神戸市）を開所
1969年	4月	スポーツシューズの生産工場として、鳥取オニツカ株式会社を設立
1980年	10月	スポーツシューズの生産工場として、鳥取アシックス工業株式会社および島根アシックス工業株式会社を設立
1982年	8月	物流コストの合理化をはかるため、アシックス物流株式会社を設立 ※①
1985年	11月	科学的基礎研究体制強化のため、スポーツ工学研究所を設置
2000年	12月	アシックスR&Dセンターで環境マネジメントシステムの国際標準規格「ISO14001」の認証を取得
2001年	10月	ウォーキング事業における意思決定の迅速化と小売業のノウハウの蓄積をはかるため、アシックス歩人館株式会社を設立※②
2002年	3月	本社で環境マネジメントシステムの国際標準規格「ISO14001」の認証を取得
	10月	スクールスポーツウエア事業の効率的な運営を図るため、アシックスデポルテ株式会社を合併※③
2005年	10月	ライフスタイルスポーツアパレル事業の効率化のため、当社のアウトドアウエア・スノーボードウエア等の事業、および株式会社アシックスアルモスの女性用スポーツスタイルウエア事業を株式会社アシックスユービッククリエーションに移管※④
2009年	4月	オニツカタイガーブランドの商品企画強化のため、株式会社O.Tプランニングを設立
	7月	当社の企業博物館であるアシックススポーツミュージアム開館

2010年	8月	アウトドア用品事業を営む HAGLÖFS HOLDING AB（ホグロフス社）の全株式を取得し、連結子会社化※⑤
-------	----	--

以上、アシックスの歴史の一部を紹介しましたが、注目してほしいのは、自社の経営方針の実現に向けて新たな工場の設立を決断するハード面での行動と、時代の流れを読んだ新たな事業の取り入れが柔軟に行われているというところです。

表中の※①では、各地に工場を建設し、生産は効率化していきますが、物流面で発生する距離の隔たりを埋めるために物流株式会社を設立しています。新しい会社を設立することは当然コストもかかります。しかし、物流の隔たりを解消することがその後の会社経営にプラスになると決断しての投資だと考えられます。

※②～⑤に共通しているのは、ウォーキングや学校向け販売の強化、アウトドアやスノーボードブームにいち早く対応するための「決断」と「行動力」です。

こうした企業経営に欠かせない迅速な判断・決断力、柔軟性を発揮しながら、環境面でも努力をしているアシックスは、ユーザにとってはもちろん、社会、地球環境にも配慮している企業であると言えるでしょう。